

## カンパラ通信～ナカセロの丘から

### 第16回 カンパラ近郊でゆっくりするには・・・

現在私が住んでいる公邸の裏手にビジネス・ビル工事が最終段階に入っています。以前からも工事による騒音がひどく日中は窓を閉めたまま過ごすほどでした。それでも日曜日はさすがに工事はお休みで静かに過ごすことができていたのです。しかし、最近は工事が遅れているためか、土曜の夕方も日曜日も工事をするようになりました。日曜の朝は鉄骨を切る丸鋸のギーギーという激しい機械音で目を覚まし、せっかくの休日を静かにゆっくり休むことができません。そのため、自己防衛策でとある週末をカンパラの郊外で過ごすことにし、どこに避難しようかと考えてみました。そうすると意外と選択の幅が限られることを実感しました。



騒音の震源ビル

自然と足が向くのは、ビクトリア湖ということになります。空港のあるエンテベもビクトリア湖を臨む半島にありますので、幾つも保養所的なホテルがありますし、ゴルフ場や動物園、そして野生の猿が歩き回り珍しい鳥が見られる植物園もあります。テラス席にゆっくりと座り吸い込まれるように青いビクトリア湖を眺めながら食事をするのできるレストランも幾つか揃っています。しかもエンテベはカンパラ市内から40kmほどの距離ですので、本来であれば手軽に行けるリゾート地なのです。すわエンテベへとハンドルを握ったかと申しますとそうは問屋がおろしません。実は幹線道路が週末を含めて数珠つなぎの渋滞になることが本当に珍しくないのです。雨でも降ろうものなら大渋滞で、こんな距離に行くだけで1時間半もかかってしまうことを仕事でエンテベを訪れた際に何度も経験

していました。空港に誰かを迎えに行く時は空港到着2時間前の出発が当たり前です。仕事で出かけて交通渋滞に遭うことが多く私的な用事で出かけるのがつつい億劫になってしまいます。

そこで、考えた末に緊急避難に選んだ場所はムニョニョ・リゾートでした。

決めたら早速ある土曜の昼下がりに、手早く荷物を鞆に詰め、工事の騒音に手を振り車に飛び乗りました。40分後幸せにも私たち夫婦はビル工事のけたたましい騒音から解放され、青々と広がるビクトリア湖ときれいな緑に歓迎されムニョニョ・リゾートの受付におりました。ここは、カンパラ市内から南南東方向に13km、やはりビクトリア湖に面した場所に位置し、私がカンパラを脱出したこの時のように道路が混雑していなければ30分もあれば十分に行ける宿舎です。



ムニョニョ・リゾートのレストラン



ムニョニョ・リゾートのプール

ムニョニョ・リゾートは、2001年にオープンしたカンパラ近郊では老舗の保養地です。ヤシの木が植えられビクトリア湖に面して作られたプールのプールサイドにはデッキチェアと大きなパラソルを配し南国風の雰囲気醸し出しています。ゆっくり散歩を楽しめる手入れの行き届いた芝生と豊かな緑、その他ジム等が備えられています。リゾートの近くにはマリナーがあり、東アフリカでしか見ることのできない鳥がたくさん生息するビクトリア湖の島めぐりもできます。また、リゾート内にはポニー牧場もあり、子供たちにはこのポニー乗馬が人気のようです。エリザベス女王も出席される英国連邦首脳会議を2007年に開くことになり、その時ムニョニョ・リゾートはこの会議の開催及びこれに出席する各国首脳のために一大会議場と59のスイートを備えた宿泊施設を増築して一新しました。これを契機にムニョニョ・リゾートは一気に高級リゾート兼国際会議場となりました。

英国連邦首脳会議以降さまざまな国際会議がここムニョニョ・リゾートで開かれています。本年に入ってから開催されたもののうちで私が出席した大きな会議だけでも、5月の東・南アフリカ税関局長会議（世界税関機構の御厨事務総局長が出席しました。）、ウガンダのムセベニ大統領と国連のグテーレス事務総長が主催した6月の難民連帯サミット（これに

は日本から岸外務副大臣(当時)が出席しました。)、8月に入ると英国連邦青年問題担当大臣会議、そしてつい最近の10月下旬に世界保健安全保障閣僚級会合、といった具合です。いずれにせよ、都会の喧騒から離れて、芝生を散歩し、テラスで湖を眺めながら食事をし、時にはプールサイドで読書をするといった週末をゆっくり過ごすには最適な場所と言えます。ただし、ぼっ~としているのに慣れていない私たち夫婦は荷物を解く時間ももどかしく施設内を散策しプールサイドからビクトリア小畔まで歩いてしまいました。

未だ交通の便が良くないのですが、来年前半までにはエンテベ空港からこのムニョニョ・リゾートまでの高速道路が開通する予定です。そのとおり開通されると俄然交通アクセスが改善されます。その高速道路沿いにもうひとつリゾートホテルがあります。このリゾートホテルは、Lake Victoria Serena Golf Resort & Spa (通称ビクトリア・セレナ)で、ゴルフ場付きであることを集客のための謳い文句にしています。このホテルは上記のムニョニョ・リゾートからビクトリア湖沿いに西に2, 3kmほど行ったところにあります。残念なことに両ホテルを直接つなぐ道路はまだありません。また、現在は、カンパラ市内からは舗装をされていない山道を通りながらこのビクトリア湖湖畔に位置するビクトリア・セレナに到着するため1時間近くかかります。しかし、これがまもなく開通する高速道路とのアクセスがうまく調整されると格段に便利になります。特に、エンテベ空港からはやはり30分足らずのアクセスとなるでしょう。



ビクトリア・セレナー本館

そうしますとムニョニョ・リゾートとビクトリア・セレナの両方のホテルを移動時間を気にせず利用できることとなります。移動時間が短縮されれば、グループ旅行やお子様連れの家族で出かけられてもムニョニョ・リゾートに宿泊しプールやポニーで楽しむ人、その間ゴルフをビクトリア・セレナでプレーする人と日中はそれぞれの楽しみを満喫できます。夜はグループ全員また家族揃って素晴らしい夕焼けの下ビクトリア湖を眺めながら、それぞれ昼間の思い出を語り合いながら夕食に舌鼓を打つことができることでしょう。一人一

人の目的に合わせてムニョニョ・リゾートとビクトリア・セレナの施設を利用しつつ一方のホテルに全員で宿泊することが可能になります。「お父さんがゴルフしたいからビクトリア・セレナに泊まったけれど、本当はムニョニョ・リゾートのポニーに乗りたかったな〜」と、お子様に言われずに済みます。また、初日は南国のリゾート気分を味わい次の日は手入れの行き届いたゴルフ場で汗を流したり散策しながら野鳥を観察するなど短期間でのビクトリア湖畔の旅を堪能できます。

このプラン、日本からのお客様にもピッタリではないかと思うのですがいかがでしょうか。

この9月に日本からの友人がゴルフを希望していたのでこのビクトリア・セレナホテルに宿泊しました。案内されたのはこじんまりとした別棟にあるなかなか豪華な内装の部屋でした。レストランで夕食をとりましたが、お客があまりいなくて経営が大丈夫なのか心配になるほどでした。翌朝、ホテルでの朝食後に湖畔まで下りて9ホールのゴルフ場でプレーしました。湖に面しているホールが多く、フェアウェイが狭いことを知っていた私はボールをたくさん用意していきました。前回のプレーが参考にならずこの時も6個くらいはビクトリア湖に寄付してきました。しかし、芝生やグリーンの手入れがウガンダとしては抜群に良くそういう意味ではゴルフを十分に楽しめます。歩いても湖からの風は気持ち良く、ボールさえ無くさなければビクトリア湖の雄大な景色は見るだけで有難い気分になります。ただひとつ残念だったのは、以前に来た時はウガンダを象徴するカンムリツルが群れをなして芝生の上で戯れている姿が見られたのですが、今回は全く見られなかったことです。大きなカンムリツルが何羽もフェアウェイを優雅に歩き羽を広げている姿は、ゴルフをしていることをすっかり忘れ見入ってしまうほどでした。現在、ゴルフ場を18ホールに拡張する工事を大々的に行っているのですが、その工事のせいでカンムリツルが森の奥に隠れてしまったのかもしれませんが。人間の我儘で工事をしているとは言え18ホールが完成した後にカンムリツルがまた戻ってくることを望んでやみません。それにしても、公邸の裏手と言いビクトリア・セレナのゴルフ場といいカンバラや郊外のリゾート地はどこもかしこも工事中です。ウガンダの更なる発展を願いつつも自然環境との共存ができたらなあと考えてしまうところです。



ビクトリア・セレナーゴルフクラブ



ゴルフ場に舞うカンムリツル

以前カンパラ市内は緑が豊かな街であるをご紹介しましたが、意外にもゆっくり安心して緑の中を散歩できる公園がありません。東京ですと、日比谷公園、上野の森、新宿御苑など大都会ながらベンチで寛ぎ噴水で涼むことのできる公園がいくつもありますね。カンパラ市内にはそういった公園がないせいかスポーツジムを備えた施設が意外とたくさんあり、スポーツジムのある集合住宅に入居を希望する人がとても多くいます。そういう人工的な器械を使ってまで運動するのが苦手な私にとっては、ムニョニョ・リゾートやあまり混んでいないゴルフコースを(プレーしながらでも、プレーしないで散歩代わりにでも)気ままに歩くことができるビクトリア・セレナは貴重な存在です。

それにしても、週末に気軽に車やバイクを気にせずに身近に散歩が楽しめるところがカンパラ市内にもっとあるといいなあ、と思う今日この頃であります。そして一方では早く幹線道路が完成し多くの日本の観光客の方がウガンダに足を延ばして下さり、ムニョニョ・リゾートやセレナ・ビクトリアに宿泊して日本では味わうことのできない雄大な熱帯気候の自然を存分に堪能していただきたいと切に願うばかりです。

今回のカンパラ避難でこのような気持ちが一層高まったのを確信しつつムニョニョ・リゾートを後にし土曜の昼下がりに帰宅しましたが、ビル工事の槌音は高らかに残酷にも辺りが暗くなるまで続いたのでした。

(以上)